

(2) 地域の現況

① 宇都宮市

宇都宮市は、人口約 45 万人の中核市であり、県都として本県の行政、経済、産業、教育、文化など各面にわたる高次都市機能を有しており、テクノポリス計画や頭脳立地計画などの推進により高度技術産業が集積し、全国有数の工業都市として発展してきた。さらに、宇都宮市を中心とした県央地域は、航空宇宙産業、自動車産業とともにロボット産業についても、世界に誇れる企業や研究機関、技術、人材などが集積している。

こうした地域が有するポテンシャルを最大限に生かすため、宇都宮市では、平成 17 年 2 月に「宇都宮市ものづくり産業振興ビジョン」を策定し、将来性のある航空宇宙、自動車、ロボットに情報通信産業分野を含めた産業を次世代モビリティ産業として重点的に取り組むべきリーディング産業に位置づけた。

今後は、地域におけるモビリティ関連中小企業等の研究開発や技術革新を促進し、新事業の展開、新産業の創出へとつなげる環境の整備を推進するため、地域における産学官の人的ネットワークの形成を核とする経済産業省の産業クラスター計画などの制度を活用し、モビリティ関連の新事業の展開、新産業の創出を促進するための取組を進めていくこととしている。

② 鹿沼市（旧「鹿沼市」の区域に限る。）、日光市（旧「今市市」の区域に限る。）

鹿沼市及び日光市は、大学や産業支援機関が集積する宇都宮市に隣接しており、これら施設の利用が容易であり、宇都宮市を中心とする一体的な経済圏を形成している。

鹿沼市は、昭和 40 年代以降、東北縦貫自動車道の鹿沼インターチェンジ周辺に木工・工業・流通団地を整備し、電子部品製造業をはじめとする高度技術を保有する企業が多数集積しているほか、地場企業の中には、高精度の加工技術を有する歯科用医療器具の分野における世界的トップ企業が立地している。

また、産学官連携組織である鹿沼ものづくり技術研究会が中心となり、平成 17 年度経済産業省の地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択されるなど、共同研究等に取り組む企業も着実に増加している。

日光市は、日光・例幣使・会津西の 3 街道の結節点が市街地にあるほか、J R・東武の両鉄道が市内を通るなど交通の便が良く、産業団地の整備や企業誘致の推進により、食料品や製薬関連企業が進出するなど、産業集積が着実に高まっている。

特に鬼怒川、大谷川の合流点である水の豊富さや日光国立公園に近接しているという環境の良さが評価され、研究開発機能を有した企業が進出し、誘致企業連絡協議会等を通じた相互交流も行っている。

さらに I C 基盤や電子部品製造業等の企業も多数集積している。

③真岡市

真岡市は、昭和 40 年代初頭、真岡第 1、第 2 工業団地が整備され、輸送用機械や非鉄金属関連産業などの集積が図られ、工業都市として急速な成長を遂げてきた。

また、テクノポリス計画及び頭脳立地計画においては、これらの工業機能に加え、商業、情報、教育等の機能を活かし、都市機能の副次的拠点としての役割を担ってきた。

現在、産業団地内企業等の活用とともに、真岡第 4 工業団地への工場や民間研究所の集積促進及び北関東自動車道のインターチェンジ及び鬼怒テクノ通りに接するという立地条件を活かした真岡第 5 工業団地の整備を進めるなど、更なる機能強化のための取り組みを進めている。

④芳賀町、高根沢町

芳賀町及び高根沢町は、テクノポリス計画及び頭脳立地計画に位置づけられてきた地域であり、輸送用機械関連企業の集積が進んでいる。

芳賀町は、芳賀工業団地の完成により輸送用機械関連を中心に高度技術を有する企業の立地が進んでおり、特に、本田技研工業のグループ企業が同団地へ本社を移転したことに伴い、関連企業の活動が一層加速している。今後も、農業と工業の均衡ある発展を図るとともに、団地内就業者等の利便を高めるため、住環境の整備を進めている。

高根沢町は、就業構造が比較的バランスのとれた町であり、近年は、住機能が飛躍的に高まってきている。

当町には情報サービス業等の集積を図るための業務用地として整備した「ソフトリサーチパーク情報の森とちぎ」を中心に、情報サービス業や研究開発型企業が立地し、さらにリサーチパーク内の中核的施設として情報技術の高度化を支援する㈱システムソリューションセンターとちぎが整備され、情報関連産業の人材育成や情報技術の高度化を支援する機能を担っている。

今後、情報サービス業などの一層の集積促進を図ることにより、地域企業への情報発信並びにサポート基地としての機能の強化が期待されている。

⑤上三川町、壬生町、下野市（下野市のうち旧「石橋町」の区域に限る。）

上三川町、壬生町、下野市は、頭脳立地計画に位置づけられ、情報サービス業や研究所などの集積促進が図られてきた地域である。

上三川町は、日産自動車栃木工場を中心に発展してきた。高度技術産学連携地域内

には同社の関連企業が数多く立地している。

また、一部供用を開始した北関東自動車道と新4号国道との結節点にあるという地理的優位性を活かし、工業・流通業務用地としてインターパーク宇都宮南やテクノパークかみのかわを整備し、産業集積が進められている。

壬生町は、北関東自動車道壬生インターチェンジの近隣に位置するおもちゃ団地が昭和40年代前半に整備され、国内のおもちゃ産業を代表する大企業や関連企業が数多く立地している。

現在では、おもちゃ製造業の他、電子部品や精密歯車の開発・供給が行われるなどソフト分野でも産業集積が進められている。

また、南部に位置する吾妻地域では、自動車部品や建設機械などの工場を中心に関連企業等約50社が立地している。

下野市は、宇都宮市の中心部までJR宇都宮線で20分以内の近距離にあり、南北に縦断する国道4号沿いに食料品製造業等が集積する他、医薬系バイオベンチャーなどの研究機関も立地している。